

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-95078

(P2001-95078A)

(43) 公開日 平成13年4月6日 (2001.4.6)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーム(参考)
H 0 4 R 1/10	1 0 4	H 0 4 R 1/10	1 0 4 C 3 B 1 1 4 1 0 4 Z 5 D 0 0 5
// A 4 4 C 1/00		A 4 4 C 1/00	

審査請求 未請求 請求項の数9 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-272250

(22) 出願日 平成11年9月27日 (1999.9.27)

(71) 出願人 599136371

有限会社セピアコーポレーション

大阪府大阪市北区南森町1丁目3番13号

(72) 発明者 南浦 弘嗣

大阪府吹田市高野台1-6-3 ロイヤル

コート602号

(74) 代理人 100076406

弁理士 杉本 勝徳 (外1名)

Fターム(参考) 3B114 AA12 BA06 CC01 CC13 CC23

EA11

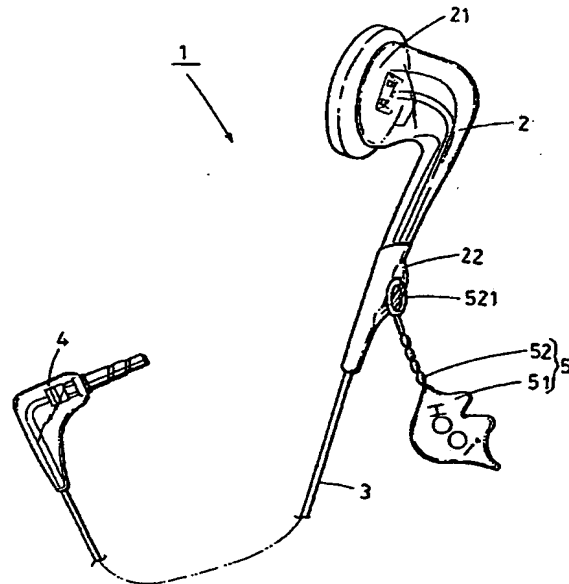
5D005 BA00 BF00

(54) 【発明の名称】 イヤホン

(57) 【要約】

【課題】 耳元を煩雑に感じさせることなく、その上ファッション性を高めることができるイヤホンを提供することにある。

【解決手段】 スピーカを内蔵したイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなるイヤホンであって、前記イヤホン本体若しくはコードに装飾品が付設されていることを特徴とする。なお、装飾品は、イヤホン本体若しくはコードに着脱自在に付設されていてもよい。また、装飾品は、装飾具と連結部材とからなり、装飾具が連結部材を介してイヤホン本体若しくはコードに付設されていてもよい。また、装飾具は、特定の図形が表示された板状の小物であってもよい。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】スピーカを内蔵したイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなるイヤホンであって、前記イヤホン本体若しくはコードに装飾品が付設されていることを特徴とするイヤホン。

【請求項2】装飾品は、イヤホン本体若しくはコードに着脱自在に付設されていることを特徴とする請求項1に記載のイヤホン。

【請求項3】装飾品は、装飾具と連結部材とからなり、装飾具が連結部材を介してイヤホン本体若しくはコードに付設されていることを特徴とする請求項1又は2に記載のイヤホン。

【請求項4】装飾具が、特定の図形が表示された板状の小物であることを特徴とする請求項3に記載のイヤホン。

【請求項5】装飾具は、使用時の吊り下げられた状態での横方向最大寸法が10mm～20mmであり、縦方向最大寸法が20mm～40mmであり、厚み寸法が1mm～5mmである、請求項3又は4に記載のイヤホン。

【請求項6】連結部材は長尺状に形成され、その一端部には装飾具が付設され、他端部は、イヤホン本体に内蔵されたスピーカの中心位置からの距離が10mm～40mmの位置に付設されていることを特徴とする請求項3～5の何れかに記載のイヤホン。

【請求項7】スピーカを内蔵したイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなるイヤホンであって、イヤホン本体若しくはコードに、装飾品を取り付けることができる取付穴を設けたことを特徴とするイヤホン。

【請求項8】イヤホン本体、及び／又は、プラグが透明若しくは半透明の部材により形成されていることを特徴とする請求項1～7の何れかに記載のイヤホン。

【請求項9】イヤホン本体、及び／又は、プラグがシルバーメッキ色若しくはパールホワイト色の部材により形成されていることを特徴とする請求項1～7の何れかに記載のイヤホン。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ファッション性などの付加価値を高めるようにしたイヤホンに関する。

【0002】

【従来の技術】近年、カセットテープやCD（コンパクトディスク）、MD（ミニディスク）などを再生する携帯型のプレーヤが普及したことにより、場所を選ばずに音楽を楽しむことができるようになってきている。この携帯型のプレーヤに用いられるイヤホンは、L-R用の一対のイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなり、前記のイヤホン本体は、耳穴にフィットし

て嵌め込みやすく抜け落ちにくい大きさをしているとともに、小型のスピーカが内蔵されている。

【0003】そして、前記のプラグをプレーヤの出力端子に装着するとともに、イヤホン本体を耳穴に嵌め込むことにより耳穴から抜け落ちないように保持された状態として、音楽を聞くことができるようになってきている。

【0004】本来、このような携帯型のプレーヤに使用されるイヤホンは、プレーヤに付属品として添付されているものであるが、携帯型プレーヤの普及にともなうて、イヤホン単体でも販売されるようになり、種々の色彩、模様、形状が施されたものが用意されているため、それらの中から所望のものを選択することができるようになってきている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前記のような従来のイヤホンは、種々の色彩、模様、形状が施されたものの中から好みのものを選択することで、おしゃれを楽しむファッション性を高めることができるようになってはいるが、特にイヤリングやピアスなどを耳につけた状態でイヤホンを使用した場合、耳元にはイヤリングやピアスなどに加えてイヤホン本体が付けられることになり、耳元が非常に煩雑に感じられ、耳元のファッション性が損なわれてしまう恐れがある。一方、イヤリングやピアスを外してイヤホンを使用すると、耳元が寂しく感じられ、ファッション性に欠けてしまう感じがする。

【0006】そこで、耳元を煩雑に感じさせることがなく、ファッション性を損なうこともないイヤホンの開発が待ち望まれていた。本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであり、耳元を煩雑に感じさせることがなく、その上ファッション性を高めることができるイヤホンを提供することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明に係るイヤホンは、前記の目的を有効に達成するために、スピーカを内蔵したイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなるイヤホンであって、前記イヤホン本体若しくはコードに装飾品が付設されていることを特徴とする。

【0008】なお、装飾品は、イヤホン本体若しくはコードに着脱自在に付設されていてもよい。また、装飾品は、装飾具と連結部材とからなり、装飾具が連結部材を介してイヤホン本体若しくはコードに付設されていてもよい。また、装飾具は、特定の図形が表示された板状の小物であってもよい。さらに、装飾具は、使用時の吊り下げられた状態での横方向最大寸法が10mm～20mmであり、縦方向最大寸法が20mm～40mmであり、厚み寸法が1mm～5mmであることが好ましい。もちろんこれらの寸法に限定されるものではない。

【0009】また、連結部材は長尺状に形成され、その一端部には装飾具が付設され、他端部は、イヤホン本体

に内蔵されたスピーカの中心位置からの距離が10mm～40mmの位置に付設されていることが好ましい。

【0010】さらに、スピーカを内蔵したイヤホン本体と、このイヤホン本体から引き出されたコードと、このコードの先端に設けられたプラグとからなるイヤホンにおいて、イヤホン本体若しくはコードに、装飾品を付設させることができる取付穴を設けることもできる。加えて、イヤホン本体、及び／又は、プラグは透明若しくは半透明又はシルバーメッキ色若しくはパールホワイト色の部材により形成することもできる。

【0011】なお、特定の図形とは、有名歌手や有名芸能人、テレビや漫画、アニメの人気キャラクター等の写真、絵、イラスト、人形、図形化された名前、愛称を付したものなど、前記有名歌手等のイメージを付したものを意味しており、いわゆるキャラクターグッズのようなものをいう。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係るイヤホンの実施の形態を図面に基いて説明する。図1は、一実施形態に係るイヤホンの要部を示す斜視図である。図2は、使用状態を示す斜視図である。図中符号1は、本実施形態に係るイヤホンを全体的に示す。

【0013】イヤホン1は、スピーカを内蔵したイヤホン本体2と、このイヤホン本体2から引き出されたコード3と、このコード3の先端に設けられたプラグ4と、イヤホン本体2に付設された装飾品5とから構成されている。イヤホン本体2は、外装が半透明の樹脂製で、耳に嵌め込む部分21にはスピーカが内蔵されている。また、このスピーカの中心位置からの距離が約25mmの位置に、取付穴22が設けられている。プラグ4は、外装が半透明の樹脂で形成されている。なお、イヤホン本体2及びプラグ4は、透明の樹脂製であってもよい。

【0014】装飾品5は、装飾具51と連結部材52とからなり、連結部材52の一端部には装飾具51が付設されており、他端部は前記イヤホン本体2の取付穴22に着脱自在に取り付けられている。連結部材52は、金属製で鎖状に形成されており、一端には取付穴22に付設させるためのリング521が備えられている。なお、連結部材52は、本実施例では、金属製で鎖状に形成されているが、長尺状のものであれば、材質、形状ともに限定されるものではなく、糸や紐などでも構わない。また、長さについては、一般のイヤリングやピアスと同様の長さであることが好ましい。

【0015】さらに前記のリング521は、図3に示すように、ネックレスなどによく用いられている所謂引き輪式のリング522にすることもできる。すなわち、リング522の一部に設けられた取手522Aを図中の矢印の方向にスライドさせると、リング522の一部が開閉し、矢印と逆方向にスライドさせると前記開口が開閉する、という構造のリング522にすることもでき、こ

れによれば簡単に装飾品5を着脱自在に取付穴22又はコード3に取り付けることができる。

【0016】装飾具51は、有名歌手の描いた図形（以下、キャラクターという。）の形状に縁取られたプレート状に形成され、その一面に前記有名歌手の愛称が図形化されたローマ字で表示されている。なお、装飾具51には、前記有名歌手の描いたキャラクターを描く、若しくは掘り込んでよい。もちろん両面に文字やイラストをデザインすることもできる。また、装飾具51の大きさは、吊り下げられた状態での横方向最大寸法が10mm～20mmであり、縦方向最大寸法が20mm～40mmであり、厚み寸法が1mm～5mmであることが好ましく、この大きさであればファッション性が高められるとともに煩わしいこともない。さらに、重量もあまり重くならないため、イヤホン本体が耳穴から抜け落ちてしまうこともない。

【0017】前記のように構成されたイヤホン1は、プラグ4をブレーヤ（図示せず）の出力端子に装着し、イヤホン本体2を耳に嵌め込むことにより、再生音を聞くことができる。この際、イヤリングやピアスをはずしてイヤホン1を使用しても、イヤホン1に装飾品5が付設されており、この装飾品5が耳たぶの辺りの位置から吊り下げられているので、まるで耳たぶにイヤリング等を付けているようにファッション性を高めることができる。

【0018】さらに、装飾品5は着脱自在であるため、適宜服装などに合わせて好みのものを選択して取り付けることができ、ファッションの選択の幅が広がる。加えて、イヤホン本体2やプラグ4が、一般的に「スケルトン」と言われるように、半透明又は透明の樹脂で形成されているため、一層ファッション性が高められる。

【0019】なお、前記取付穴22は、前記のような位置に限定されるものではないが、スピーカの中心位置からの距離が10mm～40mmの位置であることが好ましく、この場合には、この取付穴22にイヤリングやピアス等の装飾品5を取り付けた場合に、耳たぶから前記イヤリングやピアス等が吊り下げられているように見えて、ファッション性が高められるという効果を有する。

【0020】また、装飾品5はコード3に取り付けることもできる。例えば、L-R（左右）の一对のイヤホン本体2、2を接続しているコード（図示せず）を首の前側に配置させ、そのコードの略中間位置に装飾品5を付設させることにより、前記装飾品5とコードがネックレスやペンダントのような機能を果たし、ファッション性を高めることができる。なお、装飾品5に、例えばクリップやフックのような取付部材（図示せず）を設けることもでき、これによれば、いっそう簡単にコードに装飾品5を付設させることができる。

【0021】さらに、図3に示すように、装飾品5は、一つの取付穴22に2つ付設させることもでき、または

10

20

30

40

50

3つ以上の複数付設させることもできる。また、取付穴22は、1つに限定されず、2つ以上設けてもよい。

また、装飾具51は、前記のようなキャラクターが表示された小物に限定されず、一般的なイヤリングやピアスであってもよく、適宜好みのものを取り付けるとよい。

【0022】また、イヤホン1は、図1～図3に示すような、耳穴に嵌め込むタイプのものに限定されるものではない。すなわち、図示していないが、一般的に「ヘッドフォン」と言われているもののように、左右のイヤホン本体を連結帯で連結するとともにその連結帯の弾性力によって頭部を挟みこむことにより、イヤホン本体を耳にあてがう、という構成のものも、本発明に係るイヤホン1に含まれる。また、プラグ4が装着されるのは、プレーヤの出力端子に限定されるものではなく、プレーヤのリモコンに設けられた出力端子に装着されるものであってもよい。

【0023】次に、請求項8に示すイヤホンの実施例は、図3に示すイヤホン1から装飾品5を取り除いた構成、すなわち、イヤホン本体2に取付穴22を設けただけの構成であり、適宜所望の装飾品5を選択して取り付けるとよく、装飾品5を取り付けると図3に示すような状態となる。この実施例に係るイヤホンによれば、好みの装飾品5を選択して取り付けることができるので、自由にファッションを楽しむことができる。なお、取付穴22は、コード3に設けてもよい。

【0024】

【発明の効果】本発明に係るイヤホンによれば、イヤホン本体若しくはコードに装飾品が付設されているので、イヤリングやピアスを付けていない場合であっても装飾品によって耳元を飾ることができ、ファッション性を高めることができる。また、装飾品は、イヤホン本体若しくはコードに着脱自在であるので、適宜所望の装飾品に付け変えることができる。

【0025】また、装飾品を装飾具と連結部材によって構成し、装飾具を連結部材を介してイヤホン本体若しくはコードに付設させた場合は、装飾具が揺動自在にイヤホン本体もしくはコードに吊持されることとなるため、一層ファッション性が高められる。さらに、装飾具がキ

ャクターの表示された小物である場合は、宝飾品などとは一味違ったファッション、流行に反映したファッションを楽しむことができる。

【0026】加えて、装飾具の、使用時の吊り下げられた状態での横方向最大寸法が10mm～20mmであり、縦方向最大寸法が20mm～40mmであり、厚み寸法が1mm～5mmである場合は、特に、耳元が煩雑に感じられることもない。また、連結部材が長尺状に形成され、その一端部には装飾具が付設され、他端部が、イヤホン本体に内蔵されたスピーカの中心位置からの距離が10mm～40mmの位置に付設されている場合には、まるで装飾品が耳たぶに付けられているように見え、イヤリングやピアスを付けているのと同様のファッション効果をもたらすことができる。

【0027】また、イヤホン本体及びプラグが透明若しくは半透明の部材により形成されている場合には、イヤホン内部の構造を透かして見ることができ、これによってもファッション性を高めることができる。さらに、イヤホン本体と、コードと、プラグとからなり、イヤホン本体若しくはコードに取付穴が設けられているイヤホンによれば、適宜所望の装飾品を選択して取り付けることができ、自由にファッションを楽しむことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】一実施形態に係るイヤホンの要部を示す斜視図である。

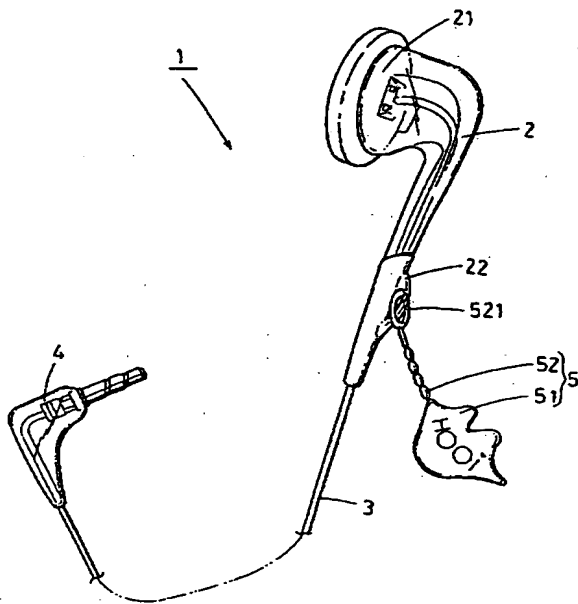
【図2】イヤホンの使用状態を示す斜視図である。

【図3】装飾品を複数付設させた実施例に係るイヤホンの要部を示す斜視図である。

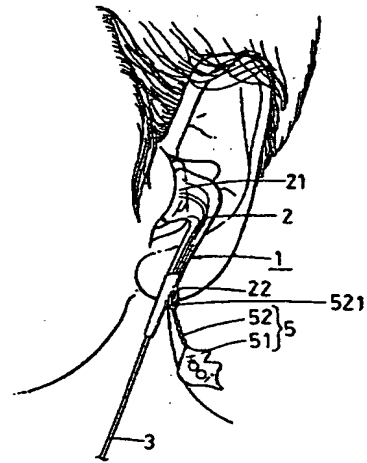
【符号の説明】

- 1：イヤホン
- 2：イヤホン本体
- 22：取付穴
- 3：コード
- 4：プラグ
- 5：装飾品
- 51：装飾具
- 52：連結部材

【図1】



【図2】



【図3】

